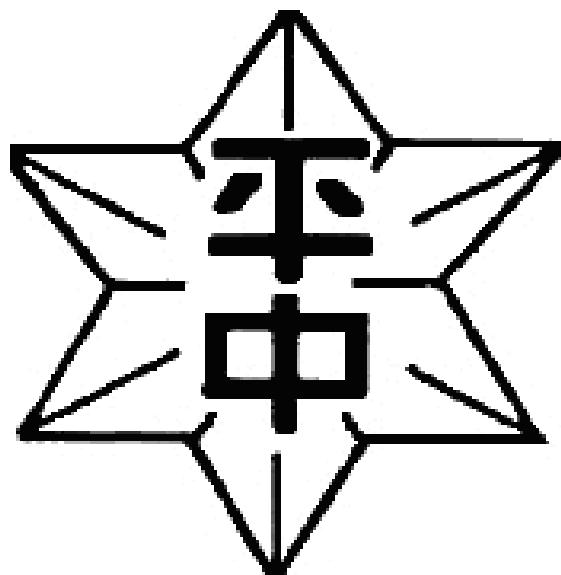


令和6年度

運営に関する計画



令和6年4月

大阪市立平野中学校

大阪市立平野中学校 令和6年度 運営に関する計画・自己評価（総括シート）

1 学校運営の中期目標

現状と課題

本校は社会に貢献できる生徒の育成を目指し、「あいさつをする、他人の話を聞く、ルールやマナーを守る」等の指導に継続して取り組んでいる。また、教職員が協力・連携し、毎日の登下校指導や生活指導、授業規律を徹底することで、落ち着いた学びの場を維持している。経済状況の悪化や家庭状況により生活が厳しい生徒もいる中、生徒は学習や部活動に前向きに取り組んでいる。しかし、自分の将来や学習に対する目標意識が低い生徒が多く、「全国学力・学習状況調査」、「大阪府チャレンジテスト」等の結果を分析すると、学力の2極化が顕著である。数年前から家庭学習の定着を図る取組を継続して行っているものの、家庭で主体的に学習する生徒の割合は増えておらず、これまでの取組の成果が表れていない。

○学級活動・生徒委員会活動・部活動等の活性化と充実を図り、部活動や生徒委員会に積極的に参加する生徒の育成を通して自己肯定感を高める。

○ICT機器を授業や家庭で活用し、生徒の個に応じた学びを保障するとともに、家庭学習の定着を図る取組が必要である。

○各教科において生徒の協働学習を推進し、言語活動によって「知識・技能」を活用し「読解力」、「思考力」、「表現力」を育成するための授業改善が必要である。また、「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った実践交流や研修等を実施する。

中期目標 R6.4.1 一部改訂

【安心・安全な教育の推進】

①令和7年度末の校内調査における、「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して肯定的回答割合→90%以上にする

②令和7年度末の校内調査における、「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、**最も肯定的な「そう思う」と回答する生徒の割合→85%以上**にする

③令和7年度末の不登校生徒の在籍比率→8%を下回る。

④令和7年度末の校内調査における、「学校の規則を守っていますか」に対して、肯定的に回答する割合→95%以上にする

⑤令和7年度末の校内調査における、「スマホの危険性や適切な使い方について理解していますか」に対して、肯定的に回答する割合→95%以上にする

⑥令和7年度末の校内調査における、「自分には良いところがありますか」に対して、肯定的回答割合→77%以上にする

⑦令和7年度末の校内調査における、「将来の夢や目標を持っていますか」に対して、肯定的回答割合→70%以上にする

【未来を切り拓く学力体力の向上】

①令和7年度の全国学力・学習状況等調査の国語・数学の対全国比→それぞれ 1.0 以上にする

②令和7年度の大阪市英語力調査で、CEFR A1 レベル（英検3級）相当以上の英語力を有する中学3年生の割合→55%以上

③令和7年度末の校内調査における、「授業や学級活動で話し合うことで、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる」の項目について、**最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合→32%以上**にする

④令和7年度の全国体力運動能力、運動習慣等調査における体力合計点の対全国比→男女ともに 1.0 以上にする

⑤令和7年度末の校内調査における、「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して**最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合→50%以上**にする

⑥令和7年度末の校内調査における、「朝食を毎日食べていますか」・「毎日、同じくらいの時刻に寝て同じくらいの時間に起きていますか」の項目について、肯定的な回答をする生徒の割合→それぞれ 88%以上にする

【学びを支える教育環境の充実】

①授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が年間授業日→50%以上にする

②教員の勤務時間の上限

基準1（1か月の時間外勤務時間が45時間以下で、1年間の時間外勤務時間が360時間以下）の教職員割合→40%以上

基準2（1か月の時間外勤務時間が45時間を超える月が1年間に6月以下で、1年間の時間外勤務時間が720時間以下）の教職員の割合→65%以上にする

③令和7年度末の校内調査における、「読書は好きですか」の項目について肯定的に答える生徒の割合→70%以上にする

④令和7年度末の保護者アンケートにおける「学校の様子をよく知ることができる」の項目について、肯定的に回答した保護者の割合→89%以上にする

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【安心・安全な教育の推進】①～⑦は全市共通目標より選択 ⑧・⑨は学校独自目標

①年度末の校内調査における、「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して肯定的回答割合→90%以上にする

令和4年	令和5年	令和6年	令和7年
86.4	89.4	88.9	

②年度末の校内調査における、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する生徒の割合を80%以上にする。

令和4年	令和5年	令和6年	令和7年
79.8	78.0	79.1	

③年度末の校内調査における、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。

令和4年	令和5年	令和6年	令和7年
5.5	8.5	7.4 (2未31人)	

④「学校の規則を守っていますか」に対して、肯定的に回答する割合→96%以上にする。

令和4年	令和5年	令和6年	令和7年
98.2	98.1	98.6	

⑤年度末の校内調査における、「スマホの危険性や適切な使い方について理解していますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合→95%以上にする。

令和4年	令和5年	令和6年	令和7年
97.5	98.1	99.4	

⑥年度末の校内調査における、「自分には良いところがありますか」に対して、肯定的に回答する割合→77%以上にする。

令和4年	令和5年	令和6年	令和7年
76.2(3年)	80.2(3年)	82.1	

⑦年度末の校内調査における、「将来の夢や目標を持っていますか」に対して、肯定的回答割合→70%以上にする。

令和4年	令和5年	令和6年	令和7年
61.1	65.0	73.3	

⑧年度末の校内調査における、「学校行事や学年取り組みにおいて、自分の役割を自覚し、積極的に行動している」の項目について、肯定的に答える生徒の割合→85%以上にする。

令和4年	令和5年	令和6年	令和7年
88.4	89.4	94.9	

⑨年度末の校内調査における、「学校では、命を大切にし、平和と人権を尊重する心と態度を学ぶことができた」の項目について、肯定的に答える生徒の割合→95%以上にする。

令和4年	令和5年	令和6年	令和7年
97.7	99.2	98.9	

【未来を切り拓く学力体力の向上】①～⑥は全市共通目標より選択

①中学生チャレンジテストにおける国語・数学・英語の平均点の対比を、同一母集団において経年に比較し、いずれの学年も前年度より0.02ポイント向上させる。

令和4年	令和5年	令和6年	令和7年
国語 0.94 (3年)	国語 0.98 (3年)	国語 0.94 (3年)	
0.91 (2年)	0.95 (2年)	0.91 (2年)	
0.95 (1年)	0.91 (1年)	0.93 (1年)	
数学 0.95 (3年)	数学 1.00 (3年)	数学 0.96 (3年)	
1.03 (2年)	0.95 (2年)	0.83 (2年)	
0.97 (1年)	0.92 (1年)	0.93 (1年)	
英語 0.94 (3年)	英語 0.95 (3年)	英語 0.92 (3年)	
0.99 (2年)	0.91 (2年)	0.93 (2年)	
0.92 (1年)	0.95 (1年)	0.90 (1年)	

②大阪市英語力調査における、CEFR A1 レベル（英検3級）相当以上の英語力を有する中学3年生の割合(4技能)→55%以上にする。

令和4年	令和5年	令和6年	令和7年
52.5	51.9	41.6	

③年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の項目について最も肯定的な「当てはまる」と回答する生徒の割合→39%以上にする。

令和4年	令和5年	令和6年	令和7年
37.4	38.2	44.3	

④全国体力運動能力、運動習慣等調査における体力合計点の対全国比→男女ともに1.0以上にする

⑤年度末の校内調査における、「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合→55%以上にする

令和4年	令和5年	令和6年	令和7年
55.6	56.0	59.4	

⑥年度末の校内調査における、「朝食を毎日食べていますか」・「毎日、同じくらいの時刻に寝て同じくらいの時間に起きていますか」に対して、肯定的な回答をする生徒の割合→それぞれ89%以上にする

令和4年	令和5年	令和6年	令和7年
朝食：91.2(3年)	朝食：89.5(3年)	朝食： 90.1	
起床：89.4	起床：90.7	就寝・起床： 87.1	

【学びを支える教育環境の充実】①～③は全市共通目標より選択 ④は学校独自目標

①授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が年間授業日→50%以上にする

令和4年	令和5年	令和6年	令和7年
—	—	39.9(12月末)	

②教員の勤務時間の上限

基準1（1か月の時間外勤務時間が45時間以下で、1年間の時間外勤務時間が360時間以下）の教職員割合→40%以上

基準2（1か月の時間外勤務時間が45時間を超える月が1年間に6月以下で、1年間の時間外勤務時間が720時間以下等）の教職員の割合→65%以上にする

令和4年	令和5年	令和6年(1月末)	令和7年
基準1：33.33	基準1：36.84	基準1：29.73	
基準2：58.97	基準2：63.16	基準2：67.57	

③年度末の校内調査における、「読書は好きですか」の項目について肯定的に答える生徒の割合→70%以上にする

令和4年	令和5年	令和6年	令和7年
70.4	69.8	66.1	

④年度末の保護者アンケートにおける「学校の様子をよく知ることができる」の項目について、肯定的に回答した保護者の割合→89%以上にする

令和4年	令和5年	令和6年	令和7年
87.6	90.6	89.9	

3 本年度の自己評価結果の総括

様々な学校行事や学年行事の取組を通して、実行委員会の発足や生徒専門員会の活性化により、生徒の自己肯定感や自己有用感を高めることができた。しかしその一方で、不登校生徒の割合や、中学校入学後の新たな不登校生徒が増えている。不登校の要因の一つに漠然とした不安が挙げられるが、その不安は学習や人間関係の構築に起因するものが多いと考える。「不登校はどの子にも起こりうるもの」という視点に立って、「心の天気」や教育相談で生徒の状況把握を行っているが、日々の生徒との対話を通してその言動の変化に気づき迅速に対応することも大切である。今年度も不登校の状況にある生徒の保護者に教育支援センターや区役所等の支援ルームを紹介し、通所ができるようになった生徒はいるが、学校に登校できるようになるケースは少ない。3年生になると進路選択・決定により一部生徒に不登校の改善がみられるが、1, 2年次に不登校の状況が大きく改善されるケースはほとんどない。このような不登校の状況にある生徒が学校とつながり、個に応じた学びを保障する観点から、今後は学校内に学びの場（別室）をつくり、不登校の克服・改善を図っていく必要があるが、長寿命化工事の関係で部屋の確保を模索しなければならない。

学力向上においては、全国学力・学習状況調査や中学生チャレンジテストの結果を経年で比較すると、全国や府の平均正答率を下回っているが、僅差となる教科もある。引き続き教員の授業力向上や授業改善を具体的な手立てを講じ推進していく。学習指導要領に基づいて授業改善を図っているが、言語活動の素地となる「知識・理解」を疎かにすることなく、学習につまずきのある生徒の基礎基本の定着に向けても授業形態や教材のさらなる工夫が必要である。「心の天気」の入力・確認が習慣化され、校内における毎日の学習者端末の活用率は70%を超えるが、80%に達するには至らない日も増えている。授業中の学習者端末の活用頻度は教員により差があり、家庭へ持ち帰りも進んでいないため、各授業での学習者端末を活用した学習や課題について検討し、家庭学習強化週間や週末または長期休業中に家庭で学習者端末を用いて学習できるようにする。

教員の業務負担の軽減において校務支援パソコンは有効ではあるが、掲示板や個人連絡の情報が多く、連絡や情報の共有が徹底できていない事がある。校務部会や各委員会等からの連絡を校務支援パソコンで行い業務軽減を図っている教員は増えているが、全教員でみると活用はそれほど進んでいないのが現状である。アンケートの集約や採点等に各種機能やアプリ等を効果的に活用することで、業務負担の軽減や時間外勤務の短縮において改善の余地があると考える。

大阪市立平野中学校 令和6年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況								
【安心・安全な教育の推進】 ①～⑦は全市共通目標より選択 ⑧・⑨は学校独自目標									
①年度末の校内調査における、「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して肯定的回答割合→90%以上にする									
<table border="1"> <tr> <td>令和4年</td><td>令和5年</td><td>令和6年</td><td>令和7年</td></tr> <tr> <td>86.4</td><td>89.4</td><td>88.9</td><td></td></tr> </table>	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	86.4	89.4	88.9		
令和4年	令和5年	令和6年	令和7年						
86.4	89.4	88.9							
②年度末の校内調査における、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、 最も肯定的な「そう思う」と回答する生徒の割合 を90%以上にする。									
<table border="1"> <tr> <td>令和4年</td><td>令和5年</td><td>令和6年</td><td>令和7年</td></tr> <tr> <td>79.8</td><td>78.0</td><td>79.1</td><td></td></tr> </table>	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	79.8	78.0	79.1		
令和4年	令和5年	令和6年	令和7年						
79.8	78.0	79.1							
③年度末の校内調査における、 <u>不登校生徒の在籍比率</u> を前年度より減少させる。									
<table border="1"> <tr> <td>令和4年</td><td>令和5年</td><td>令和6年</td><td>令和7年</td></tr> <tr> <td>5.5</td><td>8.5</td><td>7.4(2末31人)</td><td></td></tr> </table>	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	5.5	8.5	7.4(2末31人)		
令和4年	令和5年	令和6年	令和7年						
5.5	8.5	7.4(2末31人)							
④「学校の規則を守っていますか」に対して、肯定的に回答する割合→96%以上にする。									
<table border="1"> <tr> <td>令和4年</td><td>令和5年</td><td>令和6年</td><td>令和7年</td></tr> <tr> <td>98.2</td><td>98.1</td><td>98.6</td><td></td></tr> </table>	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	98.2	98.1	98.6		
令和4年	令和5年	令和6年	令和7年						
98.2	98.1	98.6							
⑤年度末の校内調査における、「スマホの危険性や適切な使い方について理解していますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合→95%以上にする。	B								
<table border="1"> <tr> <td>令和4年</td><td>令和5年</td><td>令和6年</td><td>令和7年</td></tr> <tr> <td>97.5</td><td>98.1</td><td>99.4</td><td></td></tr> </table>	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	97.5	98.1	99.4		B
令和4年	令和5年	令和6年	令和7年						
97.5	98.1	99.4							
⑥年度末の校内調査における、「自分には良いところがありますか」に対して、肯定的に回答する割合→77%以上にする。									
<table border="1"> <tr> <td>令和4年</td><td>令和5年</td><td>令和6年</td><td>令和7年</td></tr> <tr> <td>76.2(3年)</td><td>80.2(3年)</td><td>82.1</td><td></td></tr> </table>	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	76.2(3年)	80.2(3年)	82.1		
令和4年	令和5年	令和6年	令和7年						
76.2(3年)	80.2(3年)	82.1							
⑦年度末の校内調査における、「将来の夢や目標を持っていますか」に対して、肯定的回答割合→70%以上にする。									
<table border="1"> <tr> <td>令和4年</td><td>令和5年</td><td>令和6年</td><td>令和7年</td></tr> <tr> <td>61.1</td><td>65.0</td><td>73.3</td><td></td></tr> </table>	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	61.1	65.0	73.3		
令和4年	令和5年	令和6年	令和7年						
61.1	65.0	73.3							
⑧年度末の校内調査における、「学校行事や学年取り組みにおいて、自分の役割を自覚し、積極的に行動している」の項目について、肯定的に答える生徒の割合→85%以上にする。									
<table border="1"> <tr> <td>令和4年</td><td>令和5年</td><td>令和6年</td><td>令和7年</td></tr> <tr> <td>88.4</td><td>89.4</td><td>94.9</td><td></td></tr> </table>	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	88.4	89.4	94.9		
令和4年	令和5年	令和6年	令和7年						
88.4	89.4	94.9							
⑨年度末の校内調査における、「学校では、命を大切にし、平和と人権を尊重する心と態度を学ぶことができた」の項目について、肯定的に答える生徒の割合→95%以上にする。									
<table border="1"> <tr> <td>令和4年</td><td>令和5年</td><td>令和6年</td><td>令和7年</td></tr> <tr> <td>97.7</td><td>99.2</td><td>98.9</td><td></td></tr> </table>	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	97.7	99.2	98.9		
令和4年	令和5年	令和6年	令和7年						
97.7	99.2	98.9							

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【施策1 安全・安心な教育の推進】 <p>生徒の安全・安心を第一に考え、より良い措置を行うよう努める。</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・月に1度、区役所や各関係諸機関との連絡会議を行い、実態を把握する。 ・全教職員の共通理解を図るために週に1度、主任会を開き、各学年の生徒の実態を共通理解する。 ・タブレット端末の「心の天気」を毎日活用し、実態の把握に努める。 	B
取組内容②【施策1 安全・安心な教育の推進】 <p>生徒が安心して学校生活が送れるよう、学校全体でいじめの防止と早期発見に取り組む。また、いじめが疑われる場合は、迅速かつ適切にこれに対処し、さらにその再発防止に努める。</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度当初に、「中学校いじめ防止基本方針」をもとに教職員の共通理解を図る。 ・「いじめ（いのち）について考える日」に全校集会で講話をおこない、また生徒会より全校生徒にアナウンスをし、いじめを絶対に許さない学校の雰囲気作りに努める。 ・年に3回、いじめアンケートを実施し、早期発見、早期対処を徹底する。 	B
取組内容③【施策1 安全・安心な教育の推進】 <p>長期欠席児童生徒（欠席日数30日以上）について、調査を行い、状況の把握をするとともに、生徒との教育相談や家庭訪問など、普段から生活状況も含めて捉えられるよう取り組む。</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の個別状況については教育・生活シートを作成し、全教職員の共通理解を図るため研修を年に2回実施する。 ・年に3回、教育相談週間を設けて、子どもの心のケアに努める。 ・月に1回、学校生活アンケートを実施し、子どもの心のケアに努める。 	B
取組内容④【施策1 安全・安心な教育の推進】 <p>落ち着いた学びの場を維持する</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーションや日常で、校則やルールの確認を行う。 ・全校集会などで、風紀委員を中心として行う。 ・生徒会を中心として、校則やルールについて考え、活動を行う。 	B
取組内容⑤【施策2 豊かな心の育成】 <p>スマホの危険性や依存性などを生徒に理解させ適切な使い方が出来るような取り組みをおこなう。</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1学年次は校内、第2学年次は警察、第3学年次はスマホ会社によるスマホ安全教室を行い、適切な使い方を学習する。また、SNSによるトラブルが発生した場合は、事案の内容に基づいて適切な指導を行う。 	

<ul style="list-style-type: none"> 年に2回、学校教育生徒アンケートを実施し、生徒の実態を把握する。 年に2回以上、学年集会時にスマホの使い方についての指導をする。 	
取組内容⑥【施策2 豊かな心の育成】 <p>学級活動・生徒委員会活動・部活動等の活性化と充実を図る</p>	
指標 <ul style="list-style-type: none"> 生徒の活動に対し、日常、集会、通信等で紹介し、集団で共有していく。 生徒の良いところを積極的に気づいていく。 	B
取組内容⑦【施策2 豊かな心の育成】 <p>将来に見通しを持たせる活動を積極的に行う</p>	
指標 <ul style="list-style-type: none"> 1年生で職業講話などを通して、職業について知る。 2年生で職場体験などを通して、仕事の良さやきびしさを理解する。 3年生で進路指導や面接指導などを通して、具体的な将来に見通しをもち、個々にあった進路選択をする。 	B
取組内容⑧【施策2 豊かな心の育成】 <p>学校行事や学年取組について、生徒が主体的に運営や企画に携わり取り組むよう指導する。</p>	
指標 <ul style="list-style-type: none"> 月に1回、生徒専門委員会を開き、委員会で出た意見などを生徒議会で共有する。 行事ごとに、生徒実行委員会などを発足する。 行事後に、振り返りを行い、反省と成果を生徒の育成に反映する。 	B
取組内容⑨【施策2 豊かな心の育成】 <p>大阪市が長年培ってきた人権教育の実践を踏まえ、差別を許さず共に生きる社会への実現に向けて、生徒・教職員の人権意識の向上に努める。</p>	A
指標 <ul style="list-style-type: none"> 平野区人権教育講演会、ならびに平野区人権教育実践交流会への教職員の参加を促す。 各教育部会、それぞれの発案による授業を年間に最低2時間ずつ行い、生徒に豊かな人権感覚を身につけさせる。 いじめの疑いのある事案やSNSによるトラブルが発生した場合は、その事案に基づいて人権教育を行う。 	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<ul style="list-style-type: none"> 取組内容①では、定期的に主任会や外部機関と連携を取り合っているが、「心の天気」は学級によって利用頻度が極端に違う、子どもの状況を知るツールとはなっていない状況がある。 取組内容②では、学校や生徒会の自主的な啓発活動に取り組み、定期的なアンケート活動等により、いじめの早期発見につながっている。 取組内容③では、全教員での共通理解を図りながら、個別での相談活動を充実させている。ただ、不登校生の状況が個々で違い、個別の対応の仕方を今後求めていく。 取組内容④では、学校全体に一定の落ち着きがあり、学習環境が整っている状況である。一方、校則などの理解や整理をしていく必要性がある。 取組内容⑤では、各学年でSNSに関する事案が発生しており、事案があるごとに対応している。必要であるならば、その都度、学年集会や全校集会等で啓発を行っている。また、各学年とも適切なスマホの利用について学習を設けている。 	

- 取組内容⑥では、学級通信を発行している担任が多く、ほかにも学年通信等で生徒の活動を集団で共有している。
- 取組内容⑦では、将来の見通しを持たせる活動を、各学年、2学期、3学期に予定している。
- 取組内容⑧では、生徒専門委員会や生徒議会を定期的に開催して、行事や取組の活動を支えている。学年行事では、1年では一泊移住、2年ではレクリエーション大会、球技大会、3年生では修学旅行と、できるだけ生徒が主体的な活動を盛り込んだ。今後、生徒に考えさせ、運営させていく機会を求めていく。
- 取組内容⑨では、教員の人権講演会の参加率は高い。2学期の交流会など積極的に参加し、教員の人権感覚を研ぎすませていく。生徒の学習機会として、1年は平和学習や特別支援教育、2年は平和学習や性教育、3年生では平和学習や性教育を行った。どれも時間をかけて行い、有意義な活動となった。

次年度への改善点

- 取組内容①では、次年度も引き続き、主任会やさまざまな外部機関と連携して情報共有を密に行い、迅速・丁寧な対応を図る。「心とからだの天気」を生徒理解のツールの1つとして活用していく、その中の「相談」機能の充実を図っていきたい。
- 取組内容②では、いじめの発見はできているものの、次年度も引き続き、アンケートのみならず、日々の生徒の変化を敏感に感じ取る必要がある。また、学習ポータル「相談」機能も積極的活用していく。そして、いじめの啓発活動を継続しながら、ロールプレイなどの具体的な活動を取り入れていく。
- 取組内容③では、学年教員や養護教諭、SCと情報共有して、家庭の様子や実態の把握を一層深めることができたが、情報共有だけに終わらずに、個に応じての支援の仕方（校内や校外）を積極的に探る必要がある。また、学校に来づらい生徒を生み出さない雰囲気づくりを求めていく。
- 取組内容④では、今後も、学校、保護者、地域と連携を密にしながら、生徒が安心・安全な学校生活を送れるように取り組みを進める。校則やマナーも、近年の生活スタイルや生徒の状況に応じて、生徒と教職員がともに考えて見直していく。
- 取組内容⑤では、SNSのトラブルの実態把握は困難で、保護者からの連絡で判明することがほとんどであった。生徒の学習活動だけでなく、保護者にも未然防止の活動を行い、トラブルが発生した際にも冷静な対応を求めていく。
- 取組内容⑥では、今後も、さまざまな学校行事や取り組みを通じて、生徒一人ひとりが自主的に取り組み、思いやりのある行動ができるように支援していく。
- 取組内容⑦では、将来の職業について考えることが困難な生徒も多くいるが、今の社会に自分ができることを少しづつ考えさせる取り組みの検討を図っていく。
- 取組内容⑧では、さらに生徒に考えさせ、運営させていく機会を求めていく、今以上に生徒に達成感・充実感を与え、学校生活の活性化を図る。
- 取組内容⑨では、いじめやSNSトラブルで人権を無視した行為がまだまだ目立つ。生徒の実態に合わせた学習や取り組みを提案し、さらなる人権感覚の向上を努める。

大阪市立平野中学校 令和6年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A :目標を上回って達成した	B :目標どおりに達成した
C :取り組んだが目標を達成できなかった	D :ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況																
【未来を切り拓く学力体力の向上】 全市共通目標より選択 ①中学生チャレンジテストにおける国語・数学・英語の平均点の対府比を、同一母集団において経年に比較し、いずれの学年も前年度より0.02ポイント向上させる。																	
<table border="1"> <thead> <tr> <th>令和4年</th> <th>令和5年</th> <th>令和6年</th> <th>令和7年</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>国語 0.94 (3年) 0.91 (2年) 0.95 (1年)</td> <td>国語 0.98 (3年) 0.95 (2年) 0.91 (1年)</td> <td>国語 0.94 (3年) 0.91 (2年) 0.93 (1年)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>数学 0.95 (3年) 1.03 (2年) 0.97 (1年)</td> <td>数学 1.00 (3年) 0.95 (2年) 0.92 (1年)</td> <td>数学 0.96 (3年) 0.83 (2年) 0.93 (1年)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>英語 0.94 (3年) 0.99 (2年) 0.92 (1年)</td> <td>英語 0.95 (3年) 0.91 (2年) 0.95 (1年)</td> <td>英語 0.92 (3年) 0.93 (2年) 0.90 (1年)</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	国語 0.94 (3年) 0.91 (2年) 0.95 (1年)	国語 0.98 (3年) 0.95 (2年) 0.91 (1年)	国語 0.94 (3年) 0.91 (2年) 0.93 (1年)		数学 0.95 (3年) 1.03 (2年) 0.97 (1年)	数学 1.00 (3年) 0.95 (2年) 0.92 (1年)	数学 0.96 (3年) 0.83 (2年) 0.93 (1年)		英語 0.94 (3年) 0.99 (2年) 0.92 (1年)	英語 0.95 (3年) 0.91 (2年) 0.95 (1年)	英語 0.92 (3年) 0.93 (2年) 0.90 (1年)		
令和4年	令和5年	令和6年	令和7年														
国語 0.94 (3年) 0.91 (2年) 0.95 (1年)	国語 0.98 (3年) 0.95 (2年) 0.91 (1年)	国語 0.94 (3年) 0.91 (2年) 0.93 (1年)															
数学 0.95 (3年) 1.03 (2年) 0.97 (1年)	数学 1.00 (3年) 0.95 (2年) 0.92 (1年)	数学 0.96 (3年) 0.83 (2年) 0.93 (1年)															
英語 0.94 (3年) 0.99 (2年) 0.92 (1年)	英語 0.95 (3年) 0.91 (2年) 0.95 (1年)	英語 0.92 (3年) 0.93 (2年) 0.90 (1年)															
②大阪市英語力調査における、CEFR A1 レベル（英検3級）相当以上の英語力を有する中学3年生の割合(4技能)→55%以上にする。	B																
<table border="1"> <thead> <tr> <th>令和4年</th> <th>令和5年</th> <th>令和6年</th> <th>令和7年</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>52.5</td> <td>51.9</td> <td>41.6</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	52.5	51.9	41.6										
令和4年	令和5年	令和6年	令和7年														
52.5	51.9	41.6															
③年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」の項目について最も肯定的な「当てはまる」と回答する生徒の割合→39%以上にする																	
<table border="1"> <thead> <tr> <th>令和4年</th> <th>令和5年</th> <th>令和6年</th> <th>令和7年</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>37.4</td> <td>38.2</td> <td>44.3</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	37.4	38.2	44.3										
令和4年	令和5年	令和6年	令和7年														
37.4	38.2	44.3															
④全国体力運動能力、運動習慣等調査における体力合計点の対全国比→男女ともに1.0以上にする																	
⑤年度末の校内調査における、「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合→55%以上にする																	
<table border="1"> <thead> <tr> <th>令和4年</th> <th>令和5年</th> <th>令和6年</th> <th>令和7年</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>55.6</td> <td>56.0</td> <td>59.4</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	55.6	56.0	59.4										
令和4年	令和5年	令和6年	令和7年														
55.6	56.0	59.4															
⑥令和7年度末の校内調査における、「朝食を毎日食べていますか」・「毎日、同じくらいの時刻に寝て同じくらいの時間に起きていますか」の項目について、肯定的な回答をする生徒の割合→それぞれ89%以上にする																	
<table border="1"> <thead> <tr> <th>令和4年</th> <th>令和5年</th> <th>令和6年</th> <th>令和7年</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>朝食: 91.2 (3年) 起床: 89.4</td> <td>朝食: 89.5 (3年) 起床: 90.7</td> <td>朝食: 90.1 就寝・起床: 87.1</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	朝食: 91.2 (3年) 起床: 89.4	朝食: 89.5 (3年) 起床: 90.7	朝食: 90.1 就寝・起床: 87.1										
令和4年	令和5年	令和6年	令和7年														
朝食: 91.2 (3年) 起床: 89.4	朝食: 89.5 (3年) 起床: 90.7	朝食: 90.1 就寝・起床: 87.1															
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況																
取組内容①【施策4 誰一人取り残さない学力の向上】 前年度チャレンジテストの平均正答率3割以下の生徒について、誤答の多かった問題を精査し、その改善を図	B																

<p>るため定期的に家庭学習課題を設定する。また、国語、数学、英語の3教科においては習熟度別授業を行う。</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の3割以上で小テストを実施する。 ・基礎学力向上のために月に2回以上の家庭学習習慣、読解力向上のために朝読書の時間を週3日設定する。 ・学びサポーターと協力し、放課後学習会を週2回実施、休業中は補充学習会を実施する。 ・各教科で効果的なタブレットの活用を模索し、教科会で効果検証を行い、教員の授業力向上を図る。 	
<p>取組内容②【施策4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>『英検』という資格があること、受験することを促す。放課後学習会で英検対策授業を実施する。</p>	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学びサポーターと協力し、放課後学習会で英検対策を実施する。 ・英検の準会場実施を検討する。 	
<p>取組内容③【施策5 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>授業で自分の考えを深めたり、広めたりする力をつけるために、生徒間の対話による学びを推進する。</p>	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全クラス、毎月の専門委員会に向けて学級討議の時間を設け、学級で話し合い活動を行う。 ・道徳などの授業も活用し、自身の考えを発表できる活動や時間を確保する。 ・道徳や総合の時間を活用し、相手の意見を聞き、自分の考えを深め、伝える力を伸ばす。 	
<p>取組内容④【施策5 健やかな体の育成】</p> <p>生徒の実態に合わせ補強運動の種類を合わせ運動量を確保できるような授業内容を工夫し体力向上につなげる。</p>	B
<p>指標</p> <p>全国体力・運動能力・運動習慣の調査で8種目うち4種目が全国平均より上回る。</p>	
<p>取組内容⑤【施策5 健やかな体の育成】</p> <p>体育の授業においてICT機器を使用することによって技能の向上を図る。また、グループ活動を通して生徒間の肯定的なコミュニケーションの場面を増やす。</p>	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器を学期に1回使用する。 ・グループ活動を学期に2回行う。 	
<p>取組内容⑥【施策5 健やかな体の育成】</p> <p>健やかな体の育成に必要な運動、睡眠、食事の大切さを保健の授業や委員会活動を通して推進し、家庭での基本的な生活習慣の定着を図るため、家庭との連携を密にとる。</p>	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・給食委員会で月3回のお昼の放送や給食ニュースの掲示、保健委員会による健康に関する掲示物で、朝食や睡眠の大切さを発信する。 ・保健体育の授業で、健康についての単元後にワークシートで自身の基本的な生活習慣を振り返り、考えさせる。 ・食育通信を毎月発行する。 	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

●取組内容①

小テスト以外は計画通りに実施できているので、引き続き実施していきたい。小テストに関しては実施できていない教科もあるため、2学期以降で取り組んでいく。

- 各教科の小テストでは、基礎学力の定着につながる問題作りに努める。未実施の教科においては、小テストに代わる学力の定着につながる取り組みを行う。

●取組内容②

英検対策の実施はおこなっている。準会場としての実施の検討は今後必要である。

- 放課後学習会で英検対策は行っているが、生徒への周知が十分ではないため、全校集会、学年、教科、学校だよりなどを通して広く周知する。

●取組内容③

学級や授業の中で、生徒の発表の機会を確保し、相手の意見を聞き、自分の考えをまとめるようにしている。

- 学級だけでなく学年全体で共有できるような取り組みを考えていく。

●取組内容④

実施しているが、結果待ちの状況である。

●取組内容⑤

どの取り組みも計画通りに取り組んでいるので、引き続き実践していきたい。

●取組内容⑥

朝食や睡眠の大切さ等の基本的な生活習慣の確立において、保健体育の授業や給食委員会からの給食時の放送、食育通信や保健だより、掲示物を通して繰り返し指導をしている。だが、特に改善が必要な生徒に関しては個別に指導をしていく必要がある。

次年度への改善点

- 小テストの実施に関して、定期的に教科間で話し合い、進捗状況を確認する。また実施が難しい場合は定着が図れる授業計画を立てる必要がある。
- デジタルドリルの利用が効果的な教科もあるが、難しい教科もある。教科間や、学年間で話し合い、タブレットの活用を模索し続ける必要がある。また教科会で効果検証を年に2～3回は行い、教員の授業力の向上を図る。
- 『英検』という資格があること、メリットに関しても積極的に説明を行い、放課後学習会等で英語力の上昇に努めた。しかししながら、会場をとることについて時間設定を含め環境整備が整わず、会場をとることはできなかった。今後は、そのような事情を含めて実施を検討していきたい。
- 1年間を通して、生徒の相互発表の機会を作っていたが、学級内の発表にとどまった。今後は、学年全体で共有できるような取り組みを計画していく。
- 全国体力測定の結果、男子は全種目平均を下回り、女子は2種目以外（握力と上体起こし）平均を下回った。授業の最初に行う、補強運動を体力項目の要素につながる種目を実践していくことと、授業内での運動量確保に努めることが必要である。
- ICT機器を使用することで自分の動作を客観的に見られるので、動作の改善点などにつながっていた。またグループ活動を行うことで、できる生徒が苦手な生徒へ教える場面が増えたりし、コミュニケーションが円滑にできていた。
- 食育通信や保健体育の授業で朝食について保護者や生徒に啓発を行っているが、睡眠不足の生徒が見受けられるため、引き続き促していく必要がある。

大阪市立平野中学校 令和6年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況								
【学びを支える教育環境の充実】 ①～③は全市共通目標より選択 ④は学校独自目標									
①授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が年間授業日→50%以上にする									
<table border="1"> <tr> <td>令和4年</td><td>令和5年</td><td>令和6年</td><td>令和7年</td></tr> <tr> <td>一</td><td>一</td><td>39.9(12月末)</td><td></td></tr> </table>	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	一	一	39.9(12月末)		
令和4年	令和5年	令和6年	令和7年						
一	一	39.9(12月末)							
②教員の勤務時間の上限									
基準1 1か月の時間外勤務時間が45時間以下で、1年間の時間外勤務時間が360時間以下)の教職員の割合→40%以上にする									
基準2 時間外勤務が①1か月45時間を超える月が1年間に6か月以下、②1年間720時間以下、③1か月100時間以下、④連続する複数2～6か月の時間外勤務平均が80時間以下の教職員の割合→65%以上にする	B								
<table border="1"> <tr> <td>令和4年</td><td>令和5年</td><td>令和6年(1月末)</td><td>令和7年</td></tr> <tr> <td>基準1：33.33 基準2：58.97</td><td>基準1：36.84</td><td>基準1：29.73 基準2：67.57</td><td></td></tr> </table>	令和4年	令和5年	令和6年(1月末)	令和7年	基準1：33.33 基準2：58.97	基準1：36.84	基準1：29.73 基準2：67.57		
令和4年	令和5年	令和6年(1月末)	令和7年						
基準1：33.33 基準2：58.97	基準1：36.84	基準1：29.73 基準2：67.57							
③年度末の校内調査における、「読書は好きですか」の項目について肯定的に答える生徒の割合→70%以上にする									
<table border="1"> <tr> <td>令和4年</td><td>令和5年</td><td>令和6年</td><td>令和7年</td></tr> <tr> <td>70.4</td><td>69.8</td><td>66.1</td><td></td></tr> </table>	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	70.4	69.8	66.1		
令和4年	令和5年	令和6年	令和7年						
70.4	69.8	66.1							
④年度末の保護者アンケートにおける「学校の様子をよく知ることができる」の項目について、肯定的に回答した保護者の割合→89%以上にする									
<table border="1"> <tr> <td>令和4年</td><td>令和5年</td><td>令和6年</td><td>令和7年</td></tr> <tr> <td>87.6</td><td>90.6</td><td>89.9</td><td></td></tr> </table>	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	87.6	90.6	89.9		
令和4年	令和5年	令和6年	令和7年						
87.6	90.6	89.9							
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況								
取組内容①【施策6 教育DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進】 日常的に学習者用端末を活用することで生徒の心の変化を可視化し、教育相談に活かす。また、学習活動においても端末を使い校内、校外で活用する場面を増やし、端末の機能を効果的に活用する。									
指標									
<ul style="list-style-type: none"> ・スクールライフノートの「心の天気」に毎日生徒自身が心の状態を入力する。 ・「いじめアンケート」、「学校教育アンケート」、「習熟度アンケート」等の各種調査の際に学習者端末を活用する。 ・小テストや単元テスト等で、Google フォームや Microsoft Forms の活用を推進する。 ・日々の課題においてデジタルドリルを活用し、個に応じた学びの機会を保障する。 	B								

<p>取組内容②【施策 7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <p>教員の長時間勤務の解消を通じ、教員一人一人が仕事と生活の調和の実現ができる環境を整える。</p>	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部活動指導員等の会計年度職員を積極的に雇用し、部活動に起因した長時間勤務となっている顧問教員の負担軽減を図る。 ・校務支援システム等の ICT を活用し、各種調査やデータの分析にかかる時間短縮や SKIP の校内掲示板を活用し、会議時間の短縮と会議の精選を図る。 ・定期テストや実力テスト等において、AI 採点システムを活用し、テストの採点時間の短縮を図る。 	B
<p>取組内容③【施策 8 生涯学習の支援】</p> <p>生徒の興味・関心に合わせた本を精選して購入し、学校図書館を活性化させる。</p>	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・週 3 日の朝読書の時間を確保し、学校図書館を年間 85 日以上開館する。図書の貸し出し冊数を年間 200 冊以上にする。 ・平野区役所が推進する「ひらちゃんノート」の提出を 20 冊以上にするため、毎月の委員会活動後、文化委員が取り組みの啓発と点検を行う。 	B
<p>取組内容④【施策 9 家庭・地域等と連携・協働した教育の推進】</p> <p>PTA 役員会や校区の地域活動協議会等で、学校の教育活動や生徒の様子について情報を共有し、学校・地域・保護者の連携による取組を推進する。</p>	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域活動協議会の定例会で、教育活動や生徒の様子について報告する。 ・学校及び学年行事について、ホームページや学校だよりを通して周知する。 ・地域の防災リーダーや PTA 実行委員と連携した教育活動を年 2 回以上実施する。 	B
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p> <p>●取組内容①では、スクールライフノートの「心の天気」は毎日約 8 割程度の生徒自身が入力している。「いじめアンケート」、「学校教育アンケート」等の各種調査の際に Microsoft Forms を使用して学習者端末を活用しているが、小テストや単元テスト等で Microsoft Forms の活用には至っていないが、教材としての活用はある。また、学年間に差はあるが日々の課題においてデジタルドリルを活用し、個に応じた学びの機会を保障している。</p> <p>●取組内容②では、部活動指導員等の会計年度職員を積極的に雇用し、部活動に起因した長時間勤務となっている顧問教員の負担軽減を図ることができている。校務支援システム等の ICT を活用し、各種調査やデータの分析にかかる時間短縮や SKIP の校内掲示板を活用し、会議時間の短縮に図ることができている。また、職員会議でも、紙媒体からデータでの情報共有を行うことにより、印刷等にかかる時間軽減を行っている。各テストにおいて、AI 採点システムを活用し、テストの採点時間の短縮に繋がっている。</p> <p>●取組内容③では、週 3 日の朝読書の時間を確保し、学校図書館を年間 85 日以上の開館予定としている。しかし、図書の貸し出し冊数は昨年度に比べ大幅に減少しているので図書館の貸し出し利用を促す取り組みを行う必要がある平野区役所が推進する「ひらちゃんノート」の提出を 20 冊以上にするため、委員会活動後、文化委員が取り組みの啓発と「ひらちゃんノート」の点検を行う。</p>	

- 取組内容④では、地域活動協議会の定例会で、教育活動や生徒の様子について報告することは行えている。また学校及び学年行事について、ホームページや学校だよりを通して周知している。地域の防災リーダーや PTA 実行委員と連携した教育活動は図ることはできている。

次年度への改善点

●取組内容①

引き続き、「心の天気」の入力率を高くするため、毎日の声掛けが必要になってくる。アンケート等では、Microsoft Forms を使用して学習者端末を活用した。しかし、小テストや単元テスト等での活用には至っていないため、活用の推進を行うとともに、 Microsoft Forms を活用したテストを実施する場合は、ICT 支援員制度の活用により、小テストのテンプレートを作成するなど、教員全員が利用しやすいような準備を行う必要がある。またデジタルドリルの活用も広がりつつあるため、よりよい活用方法を模索していく必要がある。

●取組内容②

今年度、部活動指導員等の会計年度職員を 7 つの部活動で積極的に雇用し、部活動に起因した長時間勤務となっている顧問教員の負担軽減を図ることができている。しかし、全ての部活動で部活動指導員の雇用をしていないため、部活動によつては改善されていない場合もあり、部活動指導員の雇用を考える必要がある。次年度も引き続き、校務支援システム等の ICT を活用し、各種調査やデータの分析にかかる時間短縮や SKIP の校内掲示板を活用し、会議時間の短縮や会議の精選を行っていく。また、職員会議でも、ICT を活用することにより、会議資料の印刷・配布等にかかる時間軽減を行い、勤務時間の短縮に繋がっている。各テストにおいて、引き続き AI 採点システムを活用していく、採点時間の短縮を図っていく。

●取組内容③

朝読書は週 3 日達成することができ、学校図書館を年間 85 日以上開館できたが、ひらちゃんノートの提出は 15 冊という提出冊数であり、20 冊に届いていない。来年度は学期末の朝読書の時間を活用し、ひらちゃんノートを定期的に記入する時間を設けたい。また、文化委員がひらちゃんノートの記入を呼びかける日を設定し、促す活動を専門委員会でも行う。

●取組内容④

地域活動協議会の場やホームページ、学校通信を通して学年行事や報告などが周知できている。また、地域の防災リーダーや PTA 実行委員と連携した教育活動も来年度実施予定にしている。